

役行者

西尾市立図書館蔵

本書は、古浄瑠璃の正本をとつて、大形の草子に仕立てた刊本である。本文は、六部に分け、それぞれ冒頭は、「去間」「さる程に」などあり、結末も、古浄瑠璃特有の慣用表現となつてゐる。本来、六段の古浄瑠璃であつた。各段冒頭には、それぞれ、「役行者」「ゑんのきやうじや」「ゑんのぎやうじや」「ゑんのぎやうじや」とある。この形式は、万治寛文頃までの正本に、一般的に見られるもので、正本では、更に、その下に「初段」「二段目」などとある。草子本の本書は、その段数を削除して、他は正本の形式を踏襲したのであらう。

「役行者」に、古い正本があつたことは、「松平大和守日

記」万治四年二月十三日の条の浄瑠璃本目録に、その名が挙げられてゐることでわかる。また、井上播磨掾にも、同名の語り物があつた（延宝二年春刊「忍四季揃」。播磨掾は、古い江戸浄瑠璃を移入したのかもしれない）。

しかし、播磨掾の「役行者」は、その正本の存在を聞かない。しかるに、掲出の草子本には、「忍四季揃」下巻所収「ゑんのきやうじや花うりの四き」と殆ど同文の部分がある。また、「忍四季揃」の挿絵（本集第四、六七頁図版参照）と、掲出本の「月わか殿花うり」の図とは、明らかに、相通ふところがある。これは、共通の祖本を持つ故の類似であり、それは、播磨掾正本であらう。掲出本は、この播磨掾正本をとつて、出来たのかもしれない。

しかしながら、本文に小異の存すること、また、曲節の比較が出来ないこともあつて、江戸浄瑠璃に直接ついてゐるといふことも考へられる。が、江戸浄瑠璃も播磨掾のそれも、概して言へば、大差がないはずである。したがつて、本書により、古浄瑠璃「役行者」の全容が、ほぼ明らかになつたと言へよう。

古浄瑠璃正本をとつて、草子本としたものには、万治頃「たけたものかたり」（本集第四、七十六番）「保昌物語」（『金平浄瑠璃正本集』第三、五十番）がある。下つて、寛文三年三月にも、大坂の正本屋西沢太兵衛より、「揚貴妃物語」（本集第三、六十六番）「佐々木物かたり」が刊行された。

これらのうち、「佐々木物かたり」は元東大にあつたが、亡失した。しかし、書誌的事項が頼原ノートに残つてゐる。

そこで、頼原ノートを参考に、これら諸本をみるに、いづれも六段構成をとる。字体は、仮名草子風の比較的大字で、十一乃至十二行どり。挿絵の多いことも共通してをり、故に、丁数は、普通の正本の二、三倍にもなる。

右が、この種の草子本の特徴であるが、本書も、さうした特色を備へる。おそらく、同じ趣の刊本であらう。なかでも、「たけたものかたり」とは、版式など、似通ふところが少なくない。絵師も、同人もしくはその系統の画家であらう。万治三年頃の「三田八幡之由来」（『金平浄瑠璃正本集』第一、七番）の画家と同人、もしくはごく近い人のやうに思へる。したがつて、本書は、万治頃の上方の刊本と推定される。

資料② 西尾本 役行者 卷頭 (右) · 卷末 (左)



葛木・金峯石橋架橋
えんの行者 中巻絵二
プロシヤ文化財団国立図書館蔵

資料③ 葛木・金峯石橋架橋
えんの行者 中巻絵二 プロシヤ文化財団国立図書館蔵
(All rights reserved Staatsbibliothek zu Berlin, Preußischer Kulturbesitz)

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, with approximately 25 lines of entries. The text is mirrored across the page, suggesting it is a scan of a document with bleed-through or a double-sided page.

同 詞書